



「2020年8月31日、西尾市寄住町に西尾警察署の新庁舎が完成しました。」

西尾更生保護

第72号
 発行者
 西尾保護区保護司会
 事務局
 西尾市寄住町下田22
 西尾市役所福祉課内
 ☎(0563)56-2111(代)
 (題字 保護司 鳥居伸子)



西尾警察署の役割

西尾警察署長

佐藤 英典

明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、「これまで当たり前であったことが実はそうではない」といった、社会そのものの変革の年であったように感じます。

そんな中、八月末に西尾警察署は、二階建ての旧庁舎から六階建て、延べ床面積も一・八倍の新庁舎へと生まれ変わりました。

新庁舎の特徴は、「親しまれる庁舎」「災害に強い庁舎」「利便性に配慮した庁舎」「環境にやさしい庁舎」などが挙げられますが、そこで勤務する我々警察官一人ひとりも「市民に親しまれる、悪に強い、市民ファーストでやさしい警察官」でありたいと考えています。

西尾市内には、本署以外に七つの交番と十の駐在所がありますが、それぞれが西尾市にとって、また、それぞれの地域にとって「安全、安心の拠り所」でなければなりません。

警察署や交番、駐在所には「赤い門灯」が設置されています。夜間には、その赤い門灯が街を見張っています。多くの皆さんは、赤い門灯を見て「ホッ」とするのではないのでしょうか。その一方で犯罪を犯そうとする輩は、赤い門灯を見て「ビクッ」とするでしょう。

「一燈照隅、万燈照国」という言葉があります。警察署などに設置されている赤い門灯、そして警察官一人ひとりが西尾市全体を明るく照らし、これまで以上に安心して安全に暮らせる街になるよう職務執行に邁進して参ります。皆様方におかれましても、当署の活動に引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

現代社会の更生保護活動

西尾保護区保護司会
会長 杉浦 義信

新年明けましておめでとうございます。

日頃は、保護司会活動にご支援、ご協力を賜り誠に有難うございます。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、緊急事態宣言発令により、各種会議等の自粛が発表されました。保護司会活動も、定期総会、西尾市青少年健全育成市民大会、子育てを考える集いなど多くの行事が開催できなかつたことは残念です。会員の皆様のご協力により定例会、自主研修会、合同研修会、各部会活動が出来ましたことを深く感謝申し上げます。

令和二年度、保護区保護司会代表者会議にて、「保護司の適任者確保のための取組方針」「特例再任保護司規定の新設」について説明がありました。我々としては、今後、保護観察所のご指導を得ながら、この制度の導入に備える必要があると思います。

本年も皆様のより一層のご支援ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

西尾市更生保護女性会に期待する

西尾市更生保護
女性会
会長 大竹 照代

新年を寿ぎ、謹んでごあいさつを申し上げます。保護司の先生方には、いろいろご指導をいただき、お世話になっております。

コロナ感染拡大防止による、行事の中止に際し、多大なるご理解とご協力を頂戴し、心より感謝いたしております。すべてコロナ、コロナで終わった昨年でした。今年はそのような年なのか、心配し不安をいだいております。

「和敬」和をもって敬し、昔ながらの言葉がございませう。会員相互の和は大切な事だと思ひます。会員が一致団結し協力し、会を盛り上げていけたらと願っております。年々会員が高齢化していく状態で、新しく会に入会し、ボランティア活動に参加して世の中のために奉仕し、少しでも暮らしよい毎日を送りたいと思ひます。希望と期待を夢みつつ、より良い西尾市更生保護女性会になる事を期待し、希望をいだいて活動したいと念じております。

西尾保護区保護司会の
十周年を迎えて

平成二十三年、西尾市と幡豆郡が合併して新たに西尾保護区保護司会も五十人を超える大所帯となった。それから十年になろうとしている。保護司会も先輩諸氏の並々ならぬご苦労のお陰で今ここに至っていることを忘れてはならない。

保護司会としてこの際、幾多の変遷をしてきた西尾市と幡豆郡との歴史を振り返りながら、記念すべき足跡を残したいと記念誌の編集作業に着手した。編集委員会をどう立ち上げるか、委員をどう選ぶか、編集内容をどうするか、原稿はどの程度依頼するのか、いつ頃発刊するのか、予算は・・・など、すべき事柄がたくさんある中で、まずは動き始めなければとの思いでスタートした。月一回の編集委員会には、各部会の副部長に出席してもらい、各部会の活動の様子から原稿審議に入った。

十月現在、各部への分担原稿が、各副部長の熱心な取り組みにより整いつつある。会員からの原稿も少しずつ寄稿されてきた。退任会員への原稿依頼をすべく中学校校

に調査の中で、その安否を把握することができ、過去の保護司会の昔話も聞くことができた。「対象者と向かい合い、話をしていると心落ち込むこともあるが、更生していく姿を見るにつけこの仕事をしておよよかった」と。またある先輩保護司からは、「保護司会として取り組んでいる『子育てを考える集い』は西尾の伝統ある会であるので、更生保護のためにもぜひ後世まで残していきたい」と。

多くの人の関わりのおかげで生活している以上、難しいことも多くあるが、今ある仕事を精一杯努めていく中で自分を見つめていきたい。記念誌が刊行できる日を楽しみに最後までお力添えください。

(編集委員長 外山 修)



小林曾和夫 鈴木 忠之
杉浦しず江 外山 修 清水 勝英

研修部会

自主研修会

『地域(西尾)の国際化』

十一月二日(月)外国人との共生を考える会会長川部國弘氏、愛知県警通訳伊藤クリスティーナ氏を講師にお迎えし、自主研修会を行いました。

外国人児童生徒の学習生活支援の場として、グリーンステーションが開かれました。それが、今の多文化ルームKIBOUへとつながり、多くの子どもたちが支援を受けています。また、学校でも、取り出しによる個別指導などを行っています。



川部氏は、平成十三年に共生の会を立ち上げられました。悪さをした子をいきなり叱るのではなく、小さい頃から

悪さをしないように教えてあげることが大切であるという考えのもと、周りの大人が、「地域の子ども」という意識をもつことの大切さを説かれました。



伊藤氏は、外国人の自立支援活動に取り組んでみえます。外国人は、在留資格など様々な制約を受けています。その制約の中で精一杯生きていくことを認識し、情報提供、相談活動などの支援に取り組んでいくことの大



切さを話されました。

誰に対しても誠実に接していきたいと思えます。

(研修部会 榎原 孝宏)

研修部会

地域特別定例研修(第二期)

『生活に困窮している対象者の処遇について』

コロナ禍の中、名古屋保護観察所より観察官をお迎えして第二期の定例研修を実施。研修内容は、①貧困とは ②生活に困窮する対象者の処遇の二つでした。

更生保護において犯罪や非行の背景に貧困が関わっているケースがあります。処遇として生活救護制度・生活困窮者自立支援制度や寄り添い弁護士制度等の各種支援制度を活用し、貧困から脱するよう指導・支援が必要となるとの説明がありました。



保護観察所 観察官 成瀬 菊美氏

親の貧困が教育の機会を奪ったり心を傷つけたりしている現実があります。

身近な例で、貧困が起因し新し



い制服・靴・学用品等が買ってもらえず、他の子どもたちとの違いから恥しさのあまり不登校になっている児童の存続を知りました。

青少年の非行や犯罪に幼少期の生育歴が関与している現実があり貧困がその一因になっています。しかしながら制度による救済には限度があると思われま

コロナが起因する貧困が社会問題となっている昨今、憎悪の念が非行・犯罪に向かうことがないよう願うばかりです。

(研修部会 小木曾和夫)

新任保護司紹介



一色町 鈴木 睦

人の立ち直りを支援する。ボランティア精神に富み、他人をサポートする精神、時間的なゆとりをもち、健康で行動力もって、使命を果たしていききたい。



今川町 木下 一

教員経験の多くが中学校勤務でしたので、保護司の先生方が重責を担って活躍されている姿を何度か拝見させて頂きました。力不足と痛感しておりますが、ご指導をいただき職責を果たしていければと思います。



戸ヶ崎町 宇野 和子

幼稚園に在職中は保護司の先生や多くの人に支えていただきました。これから保護司として微力ですが、地域のお役に立てるよう一杯努めたいと思います。

令和二年度 表彰者紹介

法務大臣表彰



保護司 加藤 寛治



保護司 犬塚 忠雄



保護司 伊藤 則男



保護司 岩瀬 一



保護司 柴田 泰信



保護司 稲垣 勝利

全国保護司連盟理事長表彰

中部地方更生保護委員会 委員長表彰



保護司 犬塚 栄子



保護司 岡田 廣行



保護司 清水 勝英



更生保護 事業推進協力者 藤井 英治



保護司 太田五九郎



保護司 鈴木 忠之



保護司 蜂須賀正男

中部地方保護司連盟会長表彰

名古屋保護観察所長表彰



保護司 石川 裕司



保護司 石川 康夫



保護司 井上 和江

名古屋保護観察所長感謝状 (家族功労)

米津 進 (米津 薫保護司の夫)

柳野 知存 (柳野晴美保護司の夫)

愛知県保護司会連合会長表彰



保護司 稲垣たまえ



保護司 鈴木 茂

名古屋保護観察所長感謝状



更生保護女性会 沖田 民子



更生保護女性会 新家 弘子



更生保護女性会 中吉ミサ子



更生保護女性会 大嶋美知子



更生保護女性会 杉浦みな子

愛知県更生保護女性連盟 会長表彰

退任保護司紹介



八ツ面町 加藤 寛治 (在職16年)



一色町 深見 貞子 (在職26年)